本で子どもを応援したい

～香我美町・「本」と歩むボランティア～

本を通して子どもたちに寄り添うボランティア活動が香我美町の各所で行われています。今回は3つの活動を取材しました。

担当　広報編集委員　飯島敦子

香我美小学校　朝の読み聞かせ

1時間目が始まる前に、地域のボランティアによる読み聞かせが行われています。子どもたちと一緒に絵本を読みたい、楽しみたいという想いで集まった「かがみっ子読書応援隊」は、現在９名。2020年に始まった当初は１、２年生対象でしたが、今では全学年に広がりました。

本の借りかえや宿題の提出で慌ただしい朝の子どもたち。わいわいしていても、読み聞かせが始まるとスッと集中し、よそ見をしていた子もいつの間にか絵本に見入っています。

図書担当の濵田珠会（たまえ）先生は言います。「高学年も人に読んでもらって本に親しむことが大事。新しい世界を知ることができ、読んでもらった本を図書室で探して借りていく子どももいます。今日は読み聞かせがあるよ、と伝えると『やったー!』と喜んでいますよ」

読む作品は十人十色。長く親しまれている定番絵本はもちろん、「無人島長平」など郷土の紙芝居や、平和の尊さを伝える絵本、最近出た楽しい絵本も。読み方にもそれぞれの経験がにじみ出る読み聞かせは、子どもたちの心を育む助けになっていることでしょう。

読んでくれるの、うれしいな

普段絵本を読まないから、読み聞かせの時間は小さい頃に戻ったみたいで楽しい。

（6年・北川歩果（あゆか）さん）

僕たちのことを思ってゆっくり読んでくれてうれしい。

（6年・三部蒼介（さんぶ そうすけ）さん）

児童と一緒に読み聞かせを聞いてみませんか？日程・時間は香我美小学校までお問い合わせください。

読む方も、楽しんでいるよ

- 読み聞かせに来ると、子どものパワーをもらうことができます。
- 子どもたちと顔見知りになれるのが嬉しいです。
- 低学年と高学年で同じ本を読んで、反応の違いを楽しんでいます。
- みんなのために本を選んだり、夫や子どもを相手に練習するのが楽しいです。

読み聞かせをしてみよう

絵本のエキスパートとして地域における読書活動を推進する「絵本専門士」さんが、高知県には４人います。そのうちのお二人が香南市在住の横田潤子さん。横田さんに読み聞かせについてお聞きしました。

Q. 読み聞かせのいいところは？

A. 子どもにとって絵本は、身近な大人との愛着や語彙力、想像力、社会性などを育み、生きる力の土台を作り心の栄養になる存在です。身近な大人と絵本を囲む温かな時間と安心感の積み重ねが、子どもたちにその力を蓄えていきます。大人も一緒におはなしの世界に入り込み、表現を楽しんでみて。

Q. どうやって絵本を選んだらいい？

A. お子さんの好きな動物や乗り物、食べ物などが登場する絵本を選ぶと、興味を持ちやすいでしょう。また、長く読み継がれている絵本は良質で評価の高いものが多く、おすすめです。図書館で司書さんと一緒に選んだり、地域のおはなしの会に参加して気に入った絵本をお家で読んでみるのもいいですね。

Q. 子どもに読んであげたいけど、時間がなくて…

A. たとえば、寝る前のほんの5分だけと決めてやってみてはいかがでしょう。好きなページだけでも構いません。気軽にお子さんと一緒に絵本のページをめくってみてください。お家で難しい場合は、地域の図書館やおはなしの会などで絵本と出会う体験をさせてあげるのもいいでしょう。

横田潤子さん
絵本専門士、司書、JPIC読書アドバイザー。
読み聞かせや講座を通して絵本の魅力や可能性、楽しさを伝えている。この特集で取り上げた3つのグループでも活動しています。

おはなしの会　なんじゃもんじゃ

香我美図書館２階おはなしの部屋　第1～4土曜日　10：30～11：00

平成14年に香我美町立図書館の図書ボランティアとなった方々を中心に、20年以上続いている「かがみ読書の会」。香我美図書館で読み聞かせの会を開いています。

「♪とんとんとんとん こぶじいさん…」手作りの「ぐりとぐら」の人形を使った手あそびから始まり、大型絵本や、季節の絵本を読んでいきます。取材の日に集まった子どもは乳幼児から小学生。じゅうたんに座り、みんなでひとつの絵本を一緒に見つめ、お話に耳を傾けます。

12月の「なんじゃもんじゃ クリスマススペシャル」も人気。昨年は大型絵本や指人形の手あそび、暗闇にサンタやツリーの絵が光って浮かび上がるパネルシアターなどが披露されました。2人のかわいい小学生サンタさんがクイズを出すと、会場の子どもたちからは奇想天外な答えが飛び出し、大人たちもにっこり。

代々のメンバーの子どもたちが出し物をしたり、おはなし会にきていた子が演者として歌や楽器で参加したこともあるそうです。小学生の頃から読み聞かせを聞きに来ていて10代で読む側になり、社会人になった今も続けているというメンバーもいたりと、子どもたちの成長の場にもなっています。

ふんわり、のんびりしてほしい

本を読むのはとても楽しいことなんだ、と、心の奥のどこかにぽとんとタネを落としてもらえたら。難しいことを考えずに、うふふ、あはは、と笑える空気を感じて大人になってほしいな。

（代表・岡本二三子（ふみこ）さん）

ぶっくぶっく文庫

山南防災コミュニティセンター　毎週土曜日　13：30~15：30

運営メンバーである西内美子さんのお義母様がご自宅の納屋で始めた「出会い文庫」を前身に、場所を移しながら約40年も続いている文庫です。

大人向けも含め2,000冊以上の本があるこの場所は、代表の長﨑万里子さんによれば、本を読む場所というより「居場所」。いつも十数人の子が来ていた頃に比べて数は減ったけれど、今でも常連の子どもがいて、地域外から来る親子もいるそうです。

取材に伺った日は、子どもの頃に来ていたという男性がお子さんを連れて来ていました。山南の昔話を読みたくて、久しぶりに本を借りにきたそう。長﨑さんと思い出話に花が咲きます。「僕らは毎週のように来て、野球をしたり、山登りや工作をしたり」「豆まきやお月見会もしたよね。花を摘んできて押し花もね」

昨年のクリスマス会は、物語を覚えて語る「ストーリーテリング」で幕を開けました。大きな紙に書かれた歌詞を見ながら歌を歌ったり、魚釣りゲームをしたり。手作りケーキのおやつタイムも！よく来る顔なじみのお子さんもできることで参加して、ここでしか味わえないあったかい時間をみんなで作っていました。

本を読むのもよし、ただ和みに来るのもよし。子どもも大人もゆっくりしてって…そんな大らかな雰囲気が漂う場所でした。

「好き」「やりたい」が原動力

- 本に囲まれている環境が好き。紙芝居を演じるのも好き
- 年齢や特性の分け隔てなく仲良くできるこの場所が好き
- 人の役に立ちたくて、できることをやっています
- お姑さんの「子どもと本への想い」を受け継いで…

ボランティアの仲間に入りませんか？詳しくは各問い合わせ先までどうぞ　▶なんじゃもんじゃ　☎55-0022（香我美図書館）　▶ぶっくぶっく文庫　090-6286-2694（長﨑）　▶香我美小学校　☎54-4776